

第二章活用事例

「探究の精神が導いたノーベル賞」―湯川 秀樹―

中学校版

「心みつめて」 p.88
「心みつめて」 p.95

【主題名】 理想の実現

1-④「真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。」

【ねらい】 理想の実現に向かって真理や真実を追い求め、よりよい生き方をとる積極的な態度を育てる。

《ねらいとする道徳的価値》について《中学生の時期は、社会への関心が高まり自分の将来への理想もふくらんできます。一方で、理想と現実との違いを感じて投げやりになってしまったり、困難に直面するとすべにあきらめてしまったりする場面も見られます。謙虚に学び続けることや実直に努力し続けることの尊さに気付かせ、理想の実現を目指し積極的に生きていくこととする意欲を育てることが大切です。》



「日本人のノーベル賞受賞者を知っていますか。」

○ノーベル賞受賞者を話題にして資料への導入を図る。

○日本人として初めてノーベル賞を受賞したのが湯川秀樹であること、本時はその湯川秀樹を取り上げた文章を読むことを伝える。

○教師が「探究の精神が導いたノーベル賞」を範読する。



「秀樹はどのような気持ちで、『絶対に割れる。』と最後まで兄に言い続けたのだろうか。」

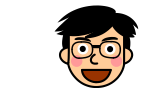
○秀樹が、小さい頃から自分の信じることを貫く強さをもっていたことを捉えさせる。



「スミに『その先にも何かあるはずなんだ。』と話しながら兄とのけんかを思い出していたとき、秀樹はどのような気持ちだったのだろうか。」

○秀樹が、自分の信じる考えを曲げることなくも続け、真理を明らかにしようとひたむきになっていることに気付かせる。

中心発問



「スミに『僕はついにたどり着いたんだよ。』と語りかけているとき、秀樹はどのような気持ちだったのだろうか。」

○自分の考えを信じ、ひたむきに真理を追究してきた秀樹の努力が実際に実を結んだことに着目させ、理想を追い求める生き方の尊さについて考えさせる。

《評価》 秀樹が理想の実現を果たしたことに共感し、真理を追い求める生き方のすばらしさや自己実現の大切さに気付けたか。



「自分が理想とする生き方を実現するには、どのようなことが大切だろうか。」

○目標を決めて努力し続けることなど、理想を実現させるために大切なことについて考えさせる。

○理想を実現するため、自分の信念を貫いて努力し続けることの大切さを教師が説話をとる。

○高い志や理想をもち、その実現に向けて自分の信念を貫き通し、決してあきらめないで努力し続けていくことが、豊かな自分の人生を切り開いていくことにつながるという趣旨の説話をする。

○「心みつめて」 p.11 の秀樹の言葉を終末に用いることも効果的である。

「未知の世界を探究する人々は、地図を持たない旅行者である。地図は探究の結果として、できるのである。」

板書例

日本人のノーベル賞受賞者

- ・ 山中 伸弥 博士
- ・ 野依 良治 博士
- ・ 小柴 昌俊 博士 など

探究の精神が導いたノーベル賞 ―湯川 秀樹―

秀樹はどのような気持ちで、「絶対に割れる。」と最後まで兄に言い続けたのだろうか。

- なんで兄さんには自分の考えが分らないのだろう。
- 自分の考えは間違っていないはずだ。
- 自分の信じる考えを曲げたくない。

スミに「その先にも何かあるはずなんだ。」と話しながら兄とのけんかを思い出していたとき、秀樹はどのような気持ちだったのだろうか。

- 自分が追い求めているものの正体を、絶対につきとめたい。
- ここであきらめたくない。自分の考えが正しいことを証明したい。
- あの時自分を曲げなかったように、自分を信じて進んでいこう。

スミに「僕はついにたどり着いたんだよ。」と語りかけているとき、秀樹はどのような気持ちだったのだろうか。

- 自分を信じてあきらめることなく研究を続けてよかった。
- 僕を理解し信じてくれたおかげで、自分の信じた道を進んでこられた。本当にありがとう。
- 自分の理想を実現することができた。ここまで努力してきてよかった。

自分が理想とする生き方を実現するには、どのようなことが大切だろうか。

- 目標を高くもって、その達成に向けて努力を続けること。
- 困難に負けず、自分の信じた道をまっすぐに進むこと。
- 何度失敗してもあきらめず、自分らしさを保ちながらがんばっていくこと。

《評価》 自理想の実現に向かって真理や真実を追い求め、よりよく生きようとする積極的な態度を育むことができたか。

終末

展開

導入